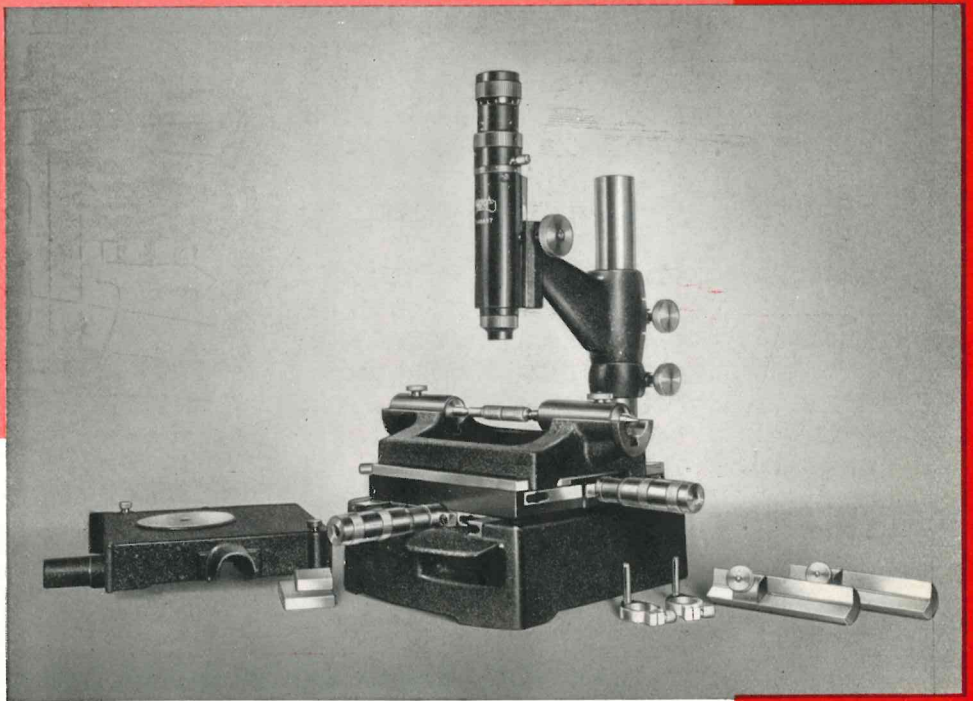


# yashima

## Tool maker's microscope Yxc



ヤシマ工用具用顯微鏡YXC

ネチ, 齒車, タツプ, ゲージ, 類ノ  
精密測定器

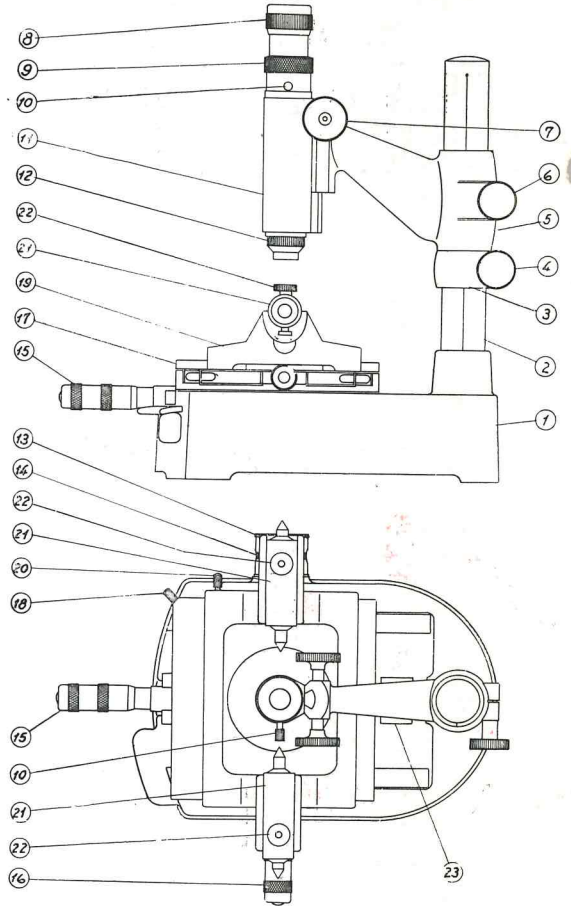
# 一 構 造

本器はネジ及タップ歯車等の諸元を精確に測定する目的の爲に製作せられたるものにして第一圖の如き構造を有して居ります。(1)は基臺(2)は顯微鏡支柱(3)は顯微鏡アーム(5)の支持環にしてハンドル(4)に依つて支柱(2)の任意の位置に固定し得られます、(6)は顯微鏡アーム(5)を支柱(2)に固定する爲のハンドル(7)は顯微鏡準焦用ハンドルであります、(8)は視度目盛環であつて各人の眼に依り之を上下に調整して視野中の角度目盛、十字線及示線を鮮明に同時に見得る様に致します、(9)は十字線板廻轉環(10)は角度目盛板廻轉用ハンドルであつて之を締める事に依つて任意の位置に固定し得られます、(11)は顯微鏡々筒(12)は對物鏡(13)は採光用窓(14)は同上用廻轉絞り筒(15)は縦軸マイクロメーター(16)は横軸マイクロメーターであります。(17)は最上部の廻轉可能載物臺(18)は同上廻轉用ハンドル(19)はセンター臺(20)は同上固定用捻子であつて之に依つてセンター臺(19)は載物臺上任意の位置に固定し得られます、(21)は六十度のセンターにして此の間に測定物螺子等を保持して測定致します、(22)はセンター締付ハンドル、(23)はゲージブロックにして二十五耗及五十耗の二種をそなへ測定範囲を増すために用ひられます。

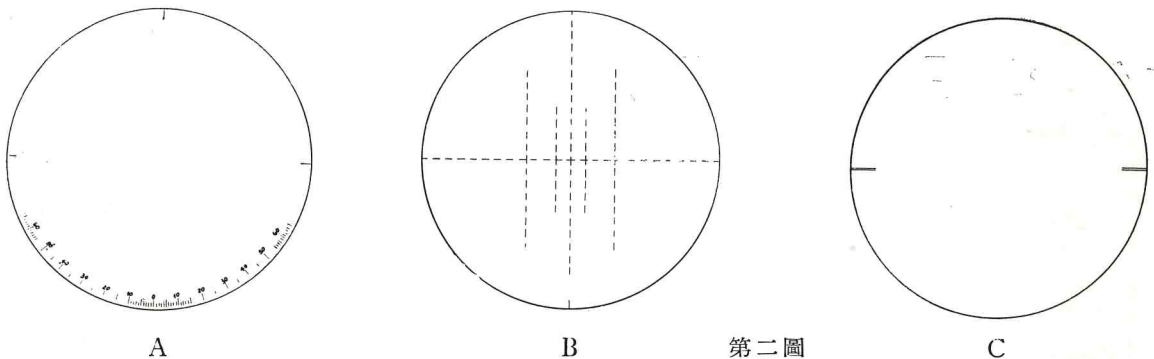
接眼部には第二圖に示す如き角度目盛板(A)十字線板(B)及示線板(C)の三種のテムプレートが取付けて有ります。角度目盛板(A)は圖の如く左右各々六十五度の目盛を有し、一度を三等分してありますから一目盛は二十分を示します。角度目盛板(A)及十字線板(B)は各々第一圖(9)及(10)により廻轉せられ之によりネジ山等の角度測定を行ひます。示線板(C)は固定せられ測定の基準となります。

上記接眼部は御希望によりまして第三圖の如きメートル山及ホイットウオース山のネジ型を有するダイヤルテンプレート付と成す事が出来ます。

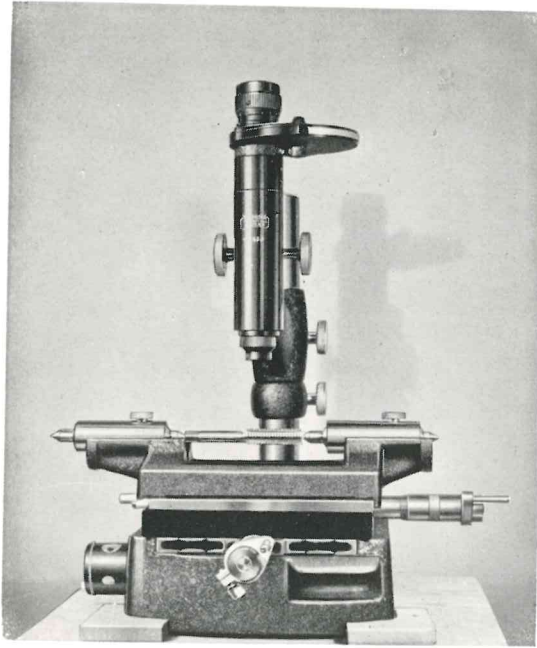
尙本器には第四圖に示す如き、投映装置を取付けて觀測し得られます



第一圖



第二圖

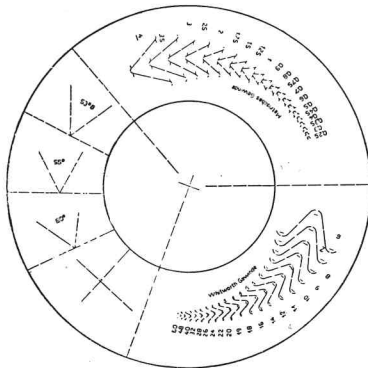
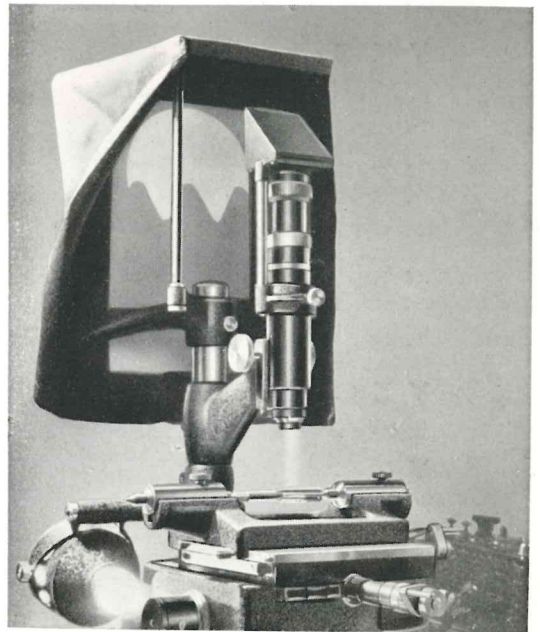


第三圖

YXCにダイヤルテンプレートを附属せる場合

第四圖

YXCに投映装置を附属せる場合



ダイヤルテンプレート

## 二 性 能

### 測 定 範 圍

横	軸	二十五耗
縦	軸	二十五耗
同		五十耗
同		七十五耗

### マイクロメーターの読み

角 度 測 定 範 圍	
指 示 し 得 る 角 度	
顯 微 鏡 倍 率	
顯 微 鏡 作 動 距 離	

マイクロメーターのみによる場合

二十五耗ゲージブロックを併用したる場合

五十耗ゲージブロックを併用したる場合

百分ノ一耗

左右 六十五度

二十分

三十倍

五十五耗





載物臺と對物鏡の最大距離	二百十耗
顯微鏡の最大昇降距離（ラックのみに依る）	九十耗
兩センター間の最大距離	百六十耗
センターの高さ	四十耗
重 量	約二十二瓩

### 三 附屬品並ニ組合セ

#### 1. YXC — A 型（標準型）（電略マイ）

下記標準附屬品を附屬せしめたる場合（表紙寫眞のもの）

イ、器 臺	一 個
ロ、セ ン タ ー 臺	一 個
ハ、セ ン タ ー 及 V フ ロ ッ ク	各 二 個 一 組
ニ、マイクロメーター用ハンドル	二 個
ホ、ゲージブツロク二十五耗五十耗	各 一 個
ヘ、載物机調整用ピン	二 個
ト、格納用木箱	一 個

#### 2. YXC — B 型（電略マロ）

上記 YXC—A型の接眼鏡部分をダイアルテンプレート付接眼鏡に変更せる場合（別圖第三圖）

#### 3. YXC — C 型（電略マハ）

YXC—A型（標準型）に投射装置を附屬せしめたる場合（別圖第四圖）

#### 4. YXC — BC型（電略マツ）

YXC—A型（標準型）にダイアルテンプレート付接眼鏡及投射装置を附屬せしめたる場合

B型に

以 上

